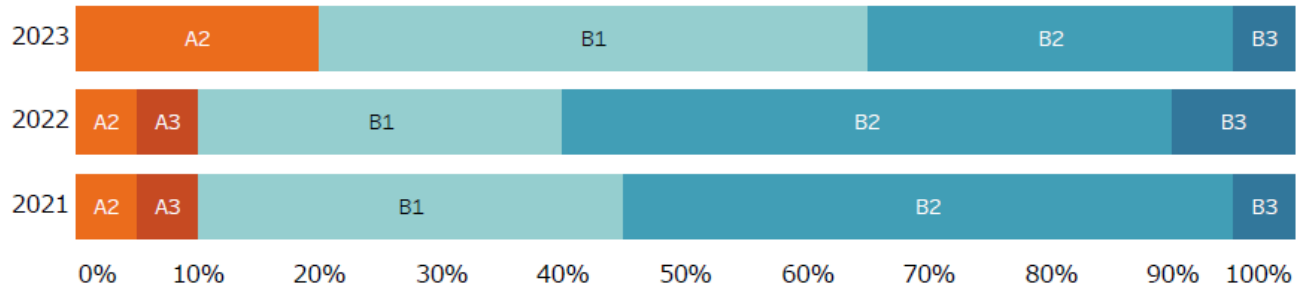


2023年 浦和明の星女子 算数（第1回）

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。出題分野の構成、問題数は、ほぼ例年通りでしたが、2022年と比べてA2、B1の出題割合が増えています。多くの受験生が一度は目にしたことがある問題が並び、取り組みやすい印象を受けました。



例年同様、大問1が計算・一行題、大問2以降が大設問の構成でした。大問1は、確実に得点しておきたい問題が並びます。(5)までは順調に進んだものの、(6)で手が止まった受験生が多かったかもしれません。見慣れない問題でしたが、半円の相似比2:3:4から、面積比(2×2):(3×3):(4×4)を利用して斜線部分の面積を求めることがポイントです。もし、手がかりがつかみづらければ、後回しにしてよい問題と思います。(7)は、テキストでもよく見る問題でした。(7)②は、水そうとおもりの底面積比を利用することがポイントです。

大問2も浦和明の星でよく見る速さの問題です。(1)は確実に得点したい問題です。(2)は、グラフのこぼこした部分に注目します。(1)から、船Bの上り・下りの速さもわかるので、つるかめ算を利用することができます。大問3「空きビン」の問題もテキストでよく見る典型的な問題です。全て確実に得点しておきたいと言えます。大問4も、多くの受験生が類題に触れたことがあると思います。和と差に注目することがポイントです。(2)は、合計1200個売り、予定よりも売り上げが $1500 + 1100 = 2600$ (円)減少したことに着目します。(3)は、問題文の冒頭に「毎月同じ目標金額を設定」とあるので、(2)で考えたことを利用できます。(2)よりも売上が、 $1100 + 12250 = 13350$ (円)増加したことに着目します。

大問5は、例年、浦和明の星でよく見る「調べる力」が求められる問題でした。(1)は、ルールの理解が問われる問題なので、確実に得点しておきたいです。(2)は、題意がわかりづらく、とまどった受験生が多かったと思います。サイコロの目1~6のそれぞれについて、移動する数(1~10)を整理するとよいでしょう。「1と7」「3と9」「4と8」であることがわかります。(3)は、(2)を利用して調べますが、後回しにしてよい問題と思います。

取り組みやすい問題が多かったため、1問の失点が大きな差を生むことになったと思います。あくまでも予想ですが、大問1(6)、大問2(2)、大問4(3)、大問5(2)(3)の6問を落としたとしても、およそ7割には達することができると考えられます。確実に得点しておきたい問題を取り、各大設問の後半の問題((2)や(3)など)にどれだけ時間を使えたかが合格のカギとなります。